

農業

1 米

①消費量が減った米

戦後、食生活が洋風化→その結果…



日本人1人1日あたりの米の消費量は50年前の約半分になっている。

米が余るようになったため、米の収穫量を調整する必要が生じた。

【 】政策…1970年代から始まった、米の生産量を調整する政策。（2018年に廃止）

・【 】…米のかわりに他の作物を作る

・【 】…稲作そのものをやめてしまう



1990年代後半までは、農産物の中でも産出額1位だったが今は畜産・野菜に次いで3位。

②稲作に適した地域…豊富な水が得られる平野部

【 】盆地・【 】平野——石狩川（北海道）

【 】平野——【 】川・阿賀野川（新潟県）

【 】平野——【 】川（山形県）

秋田平野——雄物川（秋田県）

※日本海側の米の産地は、積雪があるため水田単作地帯が多い。

関東平野——【 】川（関東一帯）

近江盆地——【 】湖（滋賀県）

【 】平野——【 】川（福岡県・佐賀県。九州の穀倉地帯）

※網の目のような細かい水路【 】が発達している

もともと稲は熱帯性の植物→高温多雨の土地が生育に適している。

→高温であっても、水もちの悪い沖縄の土壌や鹿児島【 】台地などは向いていない。

2 麦・豆・いも類など

①麦

小麦：パン・うどん・パスタなどの原料となる。

生産量1位 北海道・2位 福岡県・3位 佐賀県

輸入相手国…1位【 】・2位 カナダ・3位 オーストラリア

自給率…約15%（12%、2016年）

②豆

大豆：とうふ・みそ・しょうゆ・油などの原料となる。

※酒、みそ、しょうゆなどを作る仕事…^{じょうぞうぎょう}醸造業

生産量1位 北海道・2位 宮城県・3位 秋田県

輸入相手国…1位【 】・2位 ブラジル・3位 カナダ

自給率…約5%（7%、2016年）

③いも類

じゃがいも（ばれいしょ）

生産量1位【 】・2位【 】県・3位 鹿児島県

さつまいも（かんしょ）

生産量1位【 】県・2位 茨城県・3位 千葉県

※さつまいもは乾燥や気温の変化に強く、栄養分の少ないやせた土地でも育つので、江戸時代からききんによる食糧不足対策として栽培された。今では^{しょうちゅう}焼酎の原料としても用いられる。

④とうもろこし

ここで言うとうもろこしは飼料（家畜のえさ）用のもので、人間が食べるスイートコーンとは別。

近年、環境にやさしい燃料である【 】の原料としても利用されている。

輸入相手国…1位 アメリカ・2位 ブラジル・3位 ロシア

自給率…0%（＝輸入100%）

なす A (2位まで)

	t	%
	38900	12.7
熊本	30700	10.0
群馬	23500	7.7

ねぎ B (2位まで)

	t	%
	65200	14.0
埼玉	59900	12.9
茨城	48700	10.5

たまねぎ A (3位まで)

	t	%
	843700	67.9
	87000	7.0
	84100	6.8

にんじん B (2位まで)

	t	%
	146800	25.9
	108700	19.2
徳島	52000	9.2

ピーマン A (2位まで)

	t	%
	33900	23.4
	27000	18.6
高知	13000	9.0

いちご A (2位まで)

	t	%
	25100	15.8
	15600	9.8
熊本	10200	6.4

すいか C (1位のみ)

	t	%
熊本	48700	14.1
千葉	41300	12.0
山形	33700	9.8

メロン B (2位まで)

	t	%
	41600	26.3
	24700	15.6
熊本	21600	13.7

4 くだもの

1991年、オレンジが牛肉とともに輸入自由化され、外国産の安いオレンジにおされてみかんの生産量が減少。とくに愛媛県では、みかん→キウイフルーツやいよかんへの転作が増えた。また、くだもの自給率は約40%（41%、2016年）となっており、1980年の81%から減少が続く。

りんご：旬は秋～冬 涼しい気候の地域が適している。

みかん：旬は秋～冬 温暖な気候の地域が適している。山の斜面・段々畑を利用して栽培。

◇盆地…水はけが良く、昼と夜の気温差が大きいいため、くだもの生育に適している。

ぶどう：旬は夏～秋 生食だけでなく、ワインの原料となる。

もも：旬は夏 おうとう：旬は夏

◇その他

パイナップル（沖縄）、マンゴー（沖縄・宮崎）、西洋なし（ラ・フランス、山形）など

①2018年時点での覚えるべきくだものデータ

りんご A（2位まで）

	t	%
	447800	58.5
	142100	18.6
山形	45700	6.0

みかん A（3位まで）

	t	%
	161100	20.0
	127800	15.9
静岡	121300	15.1

日本なし B（1位のみ）

	t	%
	32700	13.2
茨城	24800	10.0
栃木	19600	7.9

ぶどう A（2位まで）

	t	%
	42500	23.7
	28800	16.1
山形	18700	10.4

もも A（2位まで）

	t	%
	39900	31.3
	29300	23.0
長野	16100	12.6

かき C（1位のみ）

	t	%
	46500	20.0
奈良	34200	14.7
福岡	16400	7.0

うめ C（1位のみ）

	t	%
	60300	65.0
群馬	4730	5.1
奈良	1920	2.1

キウイフルーツ C（1位のみ）

	t	%
愛媛	5230	20.4
福岡	4120	16.1
和歌山	3810	14.9

びわ B（1位のみ）

	t	%
	482	24.1

おうとう（さくらんぼ） A（1位のみ）

	t	%
	15000	75.8

②くだものの輸入

国内でのくだものの生産は減少傾向だが、輸入は増加している。輸入くだものでは1位の【 】が全体の20%超を占めており、フィリピンからの輸入が80%ほどである。

5 工芸作物

工芸作物…食品や工業の原料のために栽培され、加工される作物。そのままでは商品にならない。

【 】：たたみ表の原料となる。熊本県（【 】平野）。
近年、安い中国産の輸入がふえる。需要が減少している。

【 】：こんにゃくの原料となる。【 】県（下仁田町）。

茶：

生産量 1位 【 】県 大井川流域の【 】での生産がさかん。
霜害を防ぐ工夫。

2位 鹿児島県 シラス台地での生産がさかん。

3位 三重県

4位 宮崎県

5位 京都府（宇治茶で有名）

砂糖の原料となるもの

【 】：北海道で生産。別名・ビート、さとうだいこんとも呼ばれる。

【 】：沖縄県・鹿児島県の奄美諸島で生産。バイオエタノールの原料にもなる。

2018年時点での覚えるべき工芸作物のデータ

茶 A（3位まで）

	t
	30700
	24600
	6370
宮崎	3760
京都	3190

こんにゃくいも A（1位のみ）

	t
	69500
栃木	1800

いぐさ A（1位のみ）

	t
	8200
福岡	142

てんさい A（生産は北海道のみ）

	万 t
	318.9

さとうきび A（2位まで）

	万 t
	93.8
鹿児島	63.7

6 畜産

畜産の生産額は、農業全体の中で**1位**（野菜2位、米3位）。

肉類の自給率は約**55%**（53%、2016年）となっている。とくに、牛肉・オレンジの輸入が自由化された1991年以降、安い外国産の肉に押されて、国内生産は減少傾向にある。

なお、日本の食料自給率は約**40%**（38%、2016年）だが、この数値には飼料などは含まない。畜産業では、飼料であるとうもろこしのほぼ100%を輸入に頼っており、実際の自給率はもっと低いとも言える。

その他、飼料として牧草も用いられる。畜産のさかんな地域では、牧草を固めてラップをかけた【
】が点在する光景が見られる。

①家畜のかかる病気

BSE：2001年から日本でも発生した牛の脳の病気。アメリカからの牛肉の輸入が一時ストップした。

鳥インフルエンザ：感染が確認されると同じ地域にいる鶏も殺処分となる。

②肉類の消費と輸入

肉類の消費量…1位 にわたりの肉・2位 ぶた肉・3位 牛肉

肉類の輸入相手国

牛肉：1位【
】・2位【
】

ぶた肉：1位 **アメリカ**・2位 **カナダ**

にわたりの肉：1位【
】

③2018年時点での覚えるべき畜産のデータ

乳用牛 A（2位まで）

	万頭	%
	77.9	58.9
	5.2	3.9
岩手	4.3	3.2

肉用牛 A（3位まで）

	万頭	%
	51.7	20.7
	32.2	12.9
宮崎	24.4	9.8

ぶた A（2位まで）

	万頭	%
	132.7	14.2
	84.7	9.1
千葉	66.4	7.1

採卵鶏 C（1位のみ）

	万羽	%
茨城	1328	7.5
千葉	1212	6.9
鹿児島	1059	6.0

肉用若鶏 A（2位まで）

	万羽	%
	2768	20.5
	2665	19.7
岩手	2200	16.3

7 日本の農業

①生産力を上げる工夫

- 【 】…山の多い長野県などでは、山の斜面を利用して作られた田が見られる。
同じような形状の田としては、石川県【 】半島などに見られる
せんまいだ
千枚田があり、2011年に世界農業遺産として登録された。

- 【 】…より味の良い品種、寒さや病気に強い品種を作る。
例：(宮城県) ササニシキ⇒1993年の大冷害⇒ひとめぼれ

- 【 】…水路の位置を変えるなど、耕地をまっすぐにして大型の農業機械を使いやすくする。

暗きょ排水…余分な水を田の外に出して、湿田を乾田に変える。 例：越後平野

- 【 】…稲作に向いていない土地に、よそから良い土を持ってくる。

干拓…湖や海を干しあげて耕地を増やす

- 例：三大干拓地 【 】(秋田県)
【 】(岡山県)
【 】(長崎県・熊本県・福岡県・佐賀県)

- 【 】…荒れ地を切り開いて耕地とする。 例：根釧台地(北海道)
野辺山原(長野県)

用水路

- 【 】用水…【 】平野(となりの徳島県の【 】川の水を利用)
※かつては【 】(満濃池が有名)で【 】を防ぐ

★愛知三用水★

- 【 】用水…知多半島(木曾川の水を利用)
- 【 】用水…岡崎平野(矢作川の水を利用)
- 【 】用水…渥美半島(豊川・天竜川の水を利用 電照菊・温室メロン)

- 【 】…郡山市へ(東北最大の湖である【 】湖の水を利用)

②農家の分類

専業農家：主に農業の収入で生計を立てている農家

兼業農家：農業以外の仕事での収入がある農家

↓ ※最近では以下のように分類することが多い。

●主業農家

農業収入が、他からの収入よりも多く、65歳未満の農業従事60日以上の方がいる農家。

●準主業農家

農業収入よりも、他からの収入が多く、65歳未満の農業従事60日以上の方がいる農家。

●副業的農家

65歳未満の農業従事60日以上の方がいない農家。(⇒要するに高齢者だけの農家)

③日本の農業が抱える問題

第一次産業（農林水産業）に就いている人は、労働人口全体の4%にすぎない。

さらに、農業に従事する人々の【 】化が進み、農業人口の60%以上が65歳以上となっている。また、【 】不足も深刻である。

④自給率

日本の食料自給率…全体で約40%（カロリーベース）。

品目別の自給率…

米：約【 】%。日本人の主食。

小麦：約【 】%。値段の安い外国産の輸入がほとんど。

大豆：約【 】%。輸入される大豆のうち、遺伝子組み換え大豆の安全性が問われている。

野菜：約【 】%。鮮度が要求されるので輸入は少ない。残留農薬などの問題も。

果実：約【 】%。バナナが多い。グレープフルーツやアボカドなどの需要増。

肉類：約【 】%。日本人の食生活の変化によって、肉の消費量が増加。

鶏卵：ほぼ100%。日本人は卵を生で食べるので、野菜と同じく鮮度が要求される。

魚介類：約【 】%。冷凍技術の発達により輸入がしやすくなった。

◇食糧自給率が低いことによる問題点

- ・安い外国産の農産物に押されて、国内の農業が衰退する。
- ・相手国の事情で輸入がストップすると、国内で食糧不足になる可能性がある。
- ・輸入相手国に頼り過ぎていると、その国に対する発言力が弱まってしまう恐れがある。
- ・農薬や化学肥料、遺伝子組み換えについての基準が日本と違うため、安全性への不安がある。

